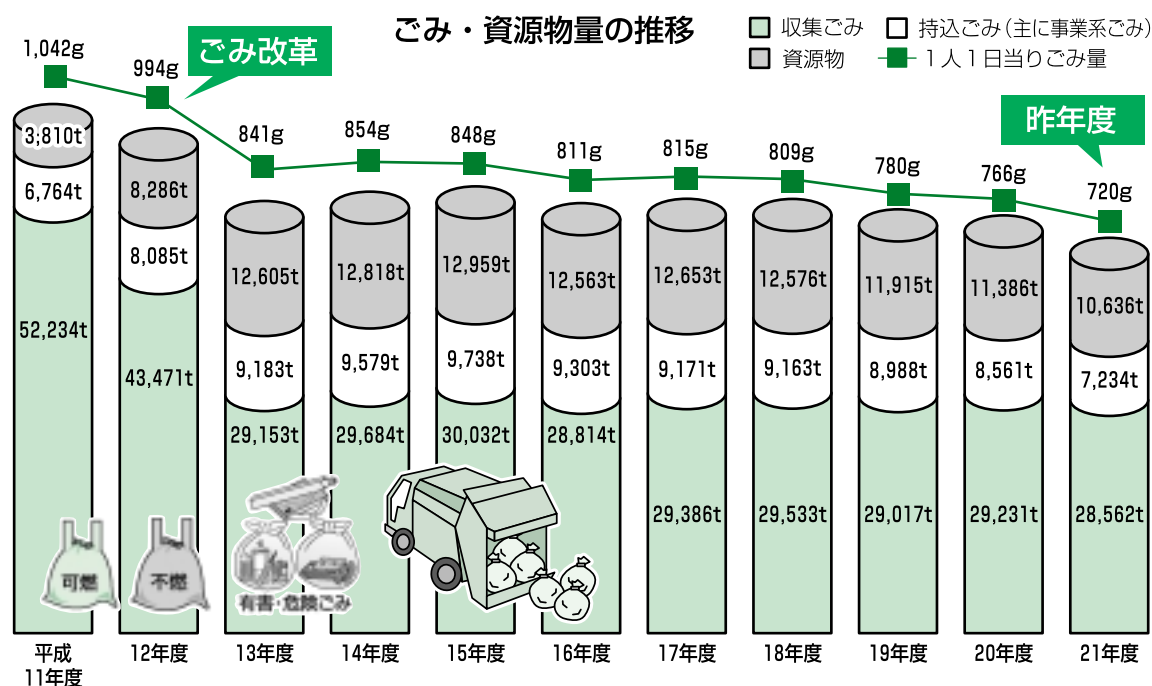




紙面から

- お知らせ  
平成22年度地域懇談会を開催……………2
- お知らせ  
市立病院市民公開講座……………3
- 特集  
第4期行財政改革推進懇談会  
市長に報告書を提出……………8
- 特集  
ひの緑のトラスト募金活動に協力を…8

# 平成21年度のごみ量が確定 市民一人ひとりの努力が結果に 「ごみ改革」後 最少の排出量



市から出るごみは、クリーンセンターでの焼却・破砕処理などの後、日の出町の二ツ塚処分場などの最終処分場へ運搬処理されています。ごみ量が減少することにより、クリーンセンターや最終処分場のある地域住民の負担を軽減するほか、運搬処理費や最終処分場の経費なども減らすことが出来ます。

ごみ減量の効果は高い

平成21年度の市民1人1日あたりの総ごみ量(資源物や持ち込みごみ量を含む)は、720・4gとなりました。平成20年度と比較すると46・1g減になり、平成12年のごみ改革後最も少ない排出量になりました。また、平成20年度からは人口が増えたにもかかわらず、ごみ量は2千747ト減りました。広報今号では、このごみ減量についての分析と市民の皆さまへのお願いをお知らせします。  
 (ごみゼロ推進課 581・0444)



この良い結果は、使い捨ての象徴であるレジ袋やプラスチック容器などの削減のために、公民協働で行ってきた「マイバッグ運動」や「容器包装お返し大作戦」の効果とされます。2年に及ぶ「マイバッグ運動」は、150人を超える市民の方々と実施し、スーパーいなかや3店舗でのレジ袋無料配布中止を実現しました。

効果がでてきた「マイバッグ運動」「お返し大作戦」

その後、市内全スーパーや市民団体を交えた「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を開催し、いったんは市内の全スーパー全店舗一斉にレジ袋無料配布中止が実現する運びとなりましたが、昨今の経済事情などから全スーパー一斉でのスタートが延期されて



今後のペットボトルやトレイ類などの資源物は、買ったお店の回収ボックスに返す行動にご協力をお願いします。

今後ともごみ量のリバウンドが発生しないよう新たな施策をお知らせしていきますので、ごみの減量に向けた行動やご協力をお願いします。

平成12年のごみ改革以降、リバウンドもなくごみ量が減少しています。しかし、多摩地域で一番ご

目標はさらに上！「1人1日あと100g」の減量を

平成20年度値)のごみ減量をしなければなりません。

全市民のご協力を得て実施した「ごみ改革」から十年。三多摩ワーストワンがきっかけでした。ポックス廃止・戸別収集と同時に、有料化まで打ち出したわけで、当時の激しい議論を思い返します。数多くの説明会。オピニオンリーダーたちの支援。マスコミや時代の後押しも受けましたが、何と云っても市民一人ひとりのご協力が成功の秘訣です。全庁的対応からISO取得まで、時間をかけじっくり取り組んだことも良かったと思います。

ごみ改革から十年  
 日野市長 ひろみ  
 馬場 弘 社